

令和4年度 第1回千代田町地域懇談会 会議録

日時：令和5年1月18日（水）10時00分～

場所：千代田公民館 多目的室2-1

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 委員紹介
5. 神崎市地域懇談会について

6. 報告

（1）神崎市役所旧本庁舎跡地の利活用について
前回の議題「神崎市役所旧庁舎跡地利活用のアンケート結果」について、その後の事業経過を担当課から報告。（資料説明省略）

委員：事業を進める中で、隣接している櫛田宮や周辺地区との協議は行うのか。事業の経過も説明しているのか、それとも市の方で方針を決めたものを進めていくのか。

事務局（建設副課長）：今後、基礎調査など事業を進めていく中で、櫛田宮や周辺地区（窓口は区長さん）と協議しながら進めていく。

委員：櫛田宮や周辺地区と協議していくのであれば、千代田町の懇談会で言われても何も言うことがないと思うが。（発言しても意味がないのでは）

事務局（建設副課長）：アンケート調査は全地区を対象に幅広く意見を聞いている。これらのご意見も参考に事業を進めていくことから、千代田町や脊振町の懇談会でも報告をさせていただいている。

事務局（企画課長）：補足だが、地域懇談会でいただいた意見については、課を横断して情報共有を図っている。今日お話いただいた点も情報共有を行う。

委員：調査期間はどれくらいで、その後の具体的なスケジュールはあるのか。

事務局（建設副課長）：今回行う利活用基礎調査業務委託については、今年度3月31日までの期間で行う。この基礎調査を元に来年度以降、基本構想などに進んでいきたい。その後の令和5年度以降のスケジュール等についてはまだ決定していないため、議会等でご説明をさせていただきたいと思っている。

7 議題

（1）神崎市総合計画後期基本計画の策定について

事務局（企画係長）：資料説明（省略）

委員：この計画素案は素晴らしい。本当にこの計画通りになれば、神崎市は素晴らしい街になる。ただ、これはあくまでも目標なのか。

事務局（企画係長）：5年間で計画目標を達成するための数値目標等は設定しているが、毎年の施策内容や10年スパンでの施策展開など、市の長いスパンでの方向性を示したものである。また、行政運営の方向性を見失わないための長期計画となっている。

委員：計画がないと施策ができない。だから、目標数値もできるだけ市民の方に知らせたらいいと思う。

事務局（企画係長）：市ホームページ等で公開し、市民の皆様に知らせたいと考えている。

委員：女性や若者の意見を掬い取るには、どうしたらいいのかと思う。

事務局（企画係長）：SNSやデジタルツールを活用した手段も検討しているところ。

委員：説明の中で、2060年の神崎市の人口ビジョンを4,500人ほど増やしたいとあったが、これは2060年で描かれた人口プラス4,500人ということか、それとも今の人口より4,500人増加するという事なのか。

事務局（企画係長）：神崎市人口ビジョンにおいて人口シミュレーションをしている。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると、2060年で神崎市の人口が2万722人とされている。神崎市人口ビジョンにおいては、2060年での推計人口は2万4,857人としており、合計特殊出生率が2.07であれば人口の増減がないと言われていたため、2040年までに2.07まで上昇できれば達成できると考える。

委員：なぜ神崎市を出るのかその理由も明確にした方がより住みやすい神崎市に結びついてくると思う。やはり神崎市から出ていく人が多い。神崎市総合戦略には出会いの場を設けるなど明記されているが、出会いがあっても他市町に出たければ何もない。その点もよく考えながら取組みを進めてもらえれば。

事務局（企画係長）：神崎市からの転出者について検証すると、女性の場合は結婚、就職のタイミング、男性の場合は高校卒業と就職のタイミングが多かった。神崎市内に就職の場を増やすため、近年企業誘致には力を入れてきている。各自治体が人口の取り合いになっている中、神崎市の人口を増やすまではいかなくても維持するためには、他市町より魅力ある街にしていくべきだと思っている。例えば子育て支援など各種施策は充実していると思うが、施策のPRが不十分だと感じている。PRに関しては、行政的なものではなく若者の目に留まりやすいような形で力を入れ、現在取組んでいる。

委員：旧庁舎跡地に児童館を建てて、そこに児童公園みたいなものを作ってほしい。現在読書活動をしているが、そういった施設ができないかと思う。

委員：生活が厳しい家計の小中学生の勉強を見るボランティア活動に参加している。そういうものがあれば、神崎市に帰ってきやすいかもしれないと感じた。

委員：地区の祭り行事について、以前は1年に4回ほど開催していたが、徐々に活動が停滞し祭り行事が廃止されるような形になってきた。そんな中、昨年からは祭り行事はコロナ禍でも実施することとなり、感染対策をしながら実施している。ただ、子が帰ってこないケースが多く世帯員が減少し、また地元消防団においても団員の後継者が少ない。その地域を知る後継者も増やす必要があると感じる。

委員：公民館の形について、佐賀市と武雄市は似ているが、小学校校区単位で地域に大きな公民館があり、そこに市の職員さん常駐している。神崎市は中央公民館を中心に活動をしているが、ある程度地域の方で分散して活動するような、その地域の独特な公民館作りが将来的にできれば少しずつ地域が元気になっていくのかなと思う。

委員：素案 25 ページ、自主防災組織の組織数が令和 3 年度で 110 組織とあるが、本当にこれほど組織されているのか。目に見えて活動している様子をあまり見かけない。例えば小郡市は組織がしっかりしていて、資材についても市から補助金があると聞く。

事務局（企画係長）：110 組織あるのは間違いない。この件に関しては、総合計画の審議会でも議論があり、自主防災組織については、今後、防災等にも力を入れ、組織自体をもっと機能させ、地域で力を入れていくような取組みについて、関係部署と協議し本計画に盛り込む形を検討している。

8. その他

9. 閉会